



困っていませんか？
メス牛の発情行動

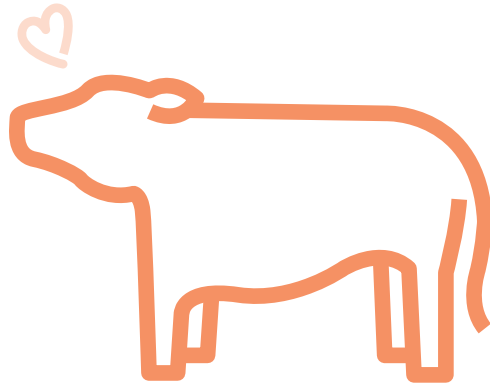
メス牛の発情行動を抑制する新しい製剤 **ボプリバ®**



FOR ANIMALS. FOR HEALTH. FOR YOU.

zoetis®

「たかが発情行動」



その考え、 見直してみませんか。

メス牛は性成熟(約10ヵ月齢～)に伴い発情行動を起こします。

しかし当然ながら病気ではないため、
その対策は見過ごされることが多くあります。

ところがメス牛の発情行動が原因で、
時に大きな事故や経済被害につながることも。

「たかが発情行動」と軽くとらえず、
上手にコントロールしていくこと。
それが、健全な肉牛農場運営につながります。

発情したメス牛のこんなことに困っていませんか？

✓ チェックして確認しましょう。

肥育期 について

- エサを食べなくなることがある
- ツノで突き合ってケガをすることがある
- 乗り合いによって足を痛めることがある
- 肥育途中で緊急出荷しなければならないことがある

枝肉品質 について

- 発情時に出荷すると肉色が悪くなる
- アタリ・シコリなどの瑕疵が多い
- 瑕疵により枝肉価格が下落することがある

管理 について

- 発情牛のハンドリング時に従業員に危険が生じることがある
- 発情牛がいると牛群全体が落ち着かずうるさいことがある
- 発情牛がいると牛群全体の飼料摂取量が低下することがある
- 鳴き声により近隣住民へ迷惑がかかることがある

一つでもチェックがある場合は、

発情行動で起こる問題を改めて把握しておきましょう。

どのような問題が起こるのか、次ページでチェック ▶▶▶

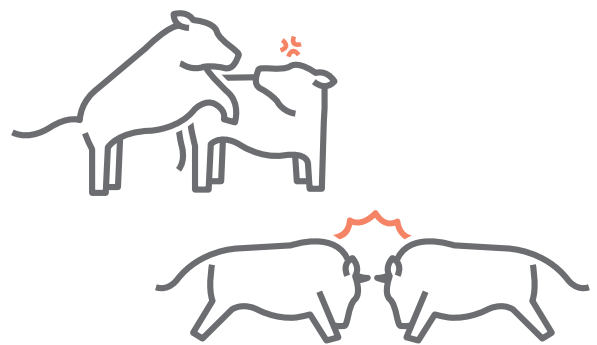
メス牛の発情行動がもたらす問題

メス牛の発情行動は、さまざまな問題を引き起こすことがあります。肥育牛のケガや、枝肉の品質低下、管理上のトラブルなどのリスクを把握しておくことが大切です。

肥育期の問題

牛同士のケンカによる事故

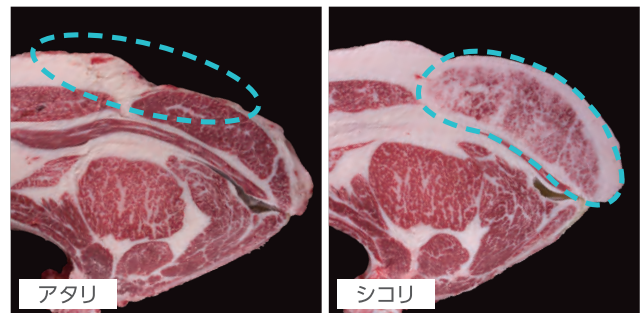
発情時には、ツノで突き合うなどの闘争によって外傷が生じることがあります。また、ほかの牛に乗ったり乗られたりして、跛行や起立不能に陥るなどの深刻な事故につながるケースもあるので注意が必要です。



枝肉品質の問題

品質低下による価格への影響

発情行動は枝肉の品質にも影響を及ぼします。打撲などによる皮下出血(アタリ)や炎症を起こした筋肉が硬くなるシコリなどは、枝肉価格の下落を招きます。また、と畜場出荷時に暴れることもあり、ストレスで肉色が悪くなることもあります。

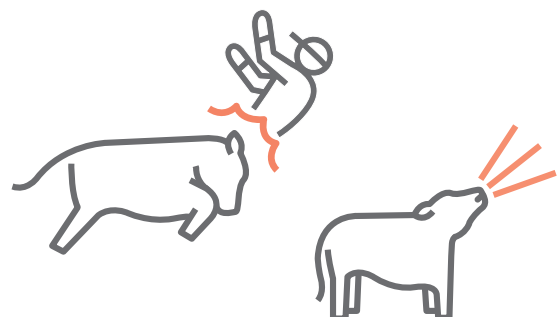


写真提供：帯広畜産大学 口田圭吾先生

管理の問題

飼養管理の手間や危険性

攻撃的になったり、大きな声で鳴いたりすることが多い発情時。作業員に危険が及んだり、近隣に騒音が響くといったトラブルは、ぜひとも避けなければなりません。また、食欲低下による増体の減少も大きな問題です。



経済的なダメージにつながることも…

メス牛の発情行動が原因と考えられる事故により、肉牛農場に大きな経済被害が生じることがあります。そのような事態を回避し確実に収益を上げるためにも、事前の対策が重要と考えられます。

発情に起因する経済被害の一例

北海道の一和牛雌牛肥育農場における発情に起因すると推測される事故発生状況

調査方法

北海道の黒毛和種繁殖肥育一貫農場において平成18年9月～平成20年11月までの約2年間に肥育出荷された雌牛101頭について、発情に起因すると推測される事故発生状況および格付け時の枝肉評価を調査。なお調査対象牛は平均8ヵ月齢で肥育に転用され、雌牛4頭を一群として管理した。

調査結果

内容	肥育期		枝肉品質	
	淘汰	繁殖転用	アタリ・シコリ等	半身廃棄
1頭あたりの損失額	77万円 (平均枝肉価格)	0万円	7万円 (瑕疵による下落額)	38万円 (平均枝肉価格)
頭数	2	1	17	1
総損失額	154万円	0万円	119万円	38万円

※松崎重範, 作田妙江: 東日本家畜受精移植技術研究会大会資料, 24, 64-65 (2009)

合計損失額 **311万円**

肥育牛1頭あたり 平均**3万円**の損失

メス牛の発情行動を抑えることで、肉牛農場の経済被害も軽減できます。

発情によるトラブルが起こる前に **ポプリバ®**

詳しくは次ページをチェック ▶▶▶

発情によるトラブルが起こる前に

ポプリバ®

ポプリバ®は メス牛の発情行動を抑制する 新しい製剤です。

ワクチンと同様の作用メカニズムで一時的に
卵巣機能(発情行動)を抑制し、発情行動に伴う
肥育期の事故や枝肉品質の低下を軽減します。



2回投与で 32週間(約8ヵ月)、効果が持続します

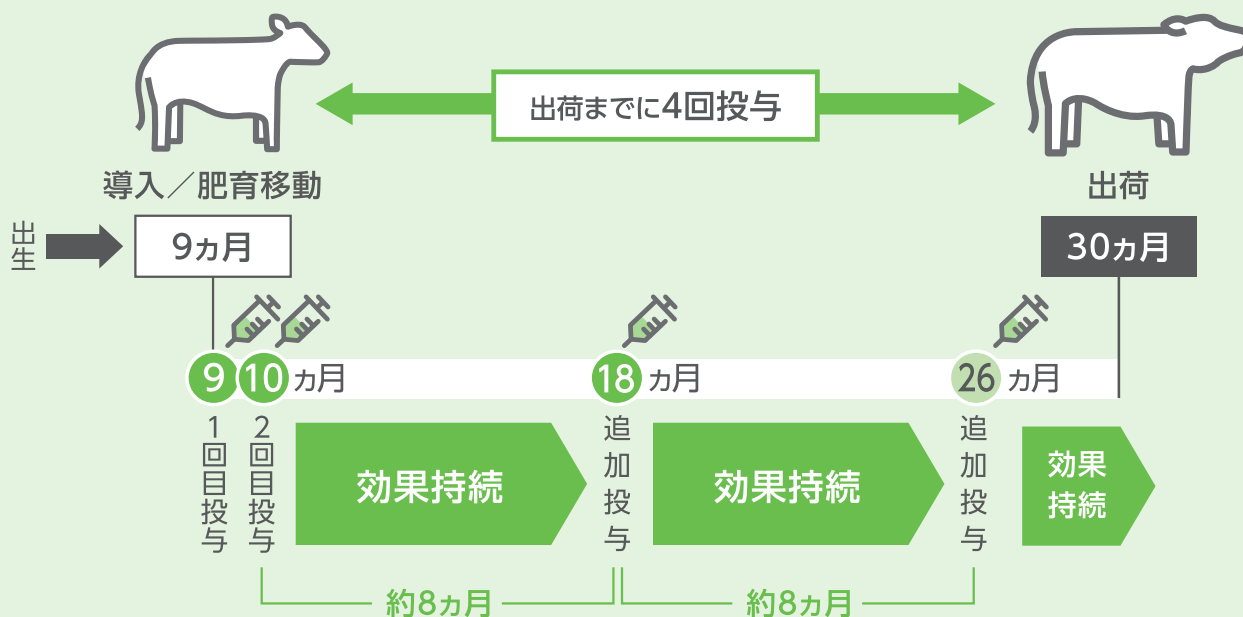
- ✓ ポプリバ®1mlを3~4週間間隔で2回、頸部皮下投与することで卵巣機能を抑制します。
- ✓ 2回目投与後約32週間効果を発揮。
その後も発情を抑制したいときは追加投与を行います。



製品使用に関する詳細は担当獣医師の先生までお問い合わせください。

投与プログラムの一例

黒毛和種肥育農場において、肥育導入～出荷まで発情をコントロールするときのプログラム例



投与プログラムを検討するにあたって必要な農場情報

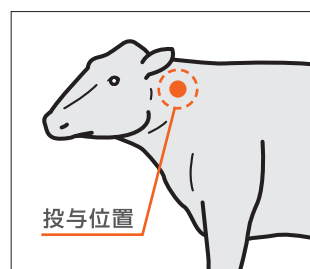
- 毎月の平均肥育導入頭数
- 平均肥育導入月齢
- 平均出荷月齢
- 削蹄を行う時期
- 他ワクチンや抗菌剤投与プログラム
- 1ペンあたりの飼養頭数（雌雄別飼育または混合飼育）
- 発情に伴う問題が生じている時期（肥育期全般、肥育後期のみ等）

投与にあたっての注意事項

ボプリバ®を投与すると投与部分が腫れることがあります。

- ・ 副反応を最小限にするため必ず皮下に投与してください。
- ・ 万が一の際にも枝肉に影響が出ることを防ぐため頸部に投与してください。

製品使用に関する詳細は担当獣医師の先生までお問い合わせください。



zoetis[®]

FOR ANIMALS. FOR HEALTH. FOR YOU.

ゾエティス・ジャパン株式会社
〒151-0053 東京都渋谷区代々木3-22-7

CT210402-HL3K